

【コンセプト③】周囲の支援力を‘えんぱわ’する

急激に増える 障がい児支援を行う事業所
児童デイサービス、放課後事業所、ヘルパー事業所等々
個々には、高い志を持ち、障がい児の日々を支えようとしているが
その「子ども独特の支援技術、一人ひとりの違い、成長とともに変わる課題」の難しさに、悩んでいるのが現状

また、各事業所・支援者の「ニーズを聞き分ける耳」も、まだ確立されていない
目の前にいる障がい児 その後ろにいる保護者
その二者は、別の障がい者であり、別のニーズがあることに、気づいていない人・所も多い

声は常に、保護者のほうが大きく、わかりやすい
だから気づくと、保護者という障がい者の支援に没頭してしまい
子どものニーズに気づけなくなってしまう



障がい児 その後ろにいる保護者
この二者の声を聞き分け、それを直接支援者に伝える役割

そして、児童特有の「成長とともに変わる課題」のアセスメント作成

それから、健やかな親離れ・子離れへの準備と支援

という黒子の役割（間接支援）

それを行い、事業所・支援者個々が「力を高める」ことで、より多くの障がい児に良い支援がゆきわたる

～役立つ黒子を目指してぴーすへの信頼を広げていくこと～